



主な内容

新年のご挨拶

特集——脳卒中・心臓病等総合支援センター開設

トピックス——内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました

募金状況報告

フリーページ——すこやかスポット医学講座No.114

「寡分割照射による放射線治療回数・治療期間の短縮」

表紙写真：臨床工学技士指導のもと行われたAED講習（関連記事P.9）

新年のご挨拶

理事長 小川 彰



皆様、明けましておめでとうございます。

今年も新年早々、能登半島地震が起きまして、13年前に起きた東日本大震災当時の大変な状況を思い出した方々も多かったのではないかと思います。

さて、学校法人岩手医科大学は、現在経営的に厳しい状況でございます。職員の皆様には、総合移転整備計画からこれまでの経過と現状等について、お話しさせていただきたいと思っております。

本学は、第一次事業として2003年矢巾A・B敷地を取得する時点で、基本金や現預金で約130億円の資金を有しておりました。2007年には、同敷地内に薬学部、基礎教育のための講義棟、実習棟等を整備。第二次事業は、2009年に同敷地内の更なる拡充（大堀記念講堂を含む本部棟、超高磁場先端MRI研究所、研究施設等）を資金的な余裕を持って完遂し、この時までには自己資金で計画を着々と進行してきました。

他方、このあたりから国内では大変なことが起こってきました。

2013年から始まったアベノミクス、2021年開催の東京オリンピック特需、東日本大震災に伴う復興特別会計の終了間際の駆け込み需要による人件費の高騰、円安に加え、相次ぐ消費税増税（1997年に3%から5%へ、2014年に8%、2019年10月から10%）も重なったため、苦渋の決断として200億円の借入を行い、附属病院整備費用を補填することになりました。

消費税については、平成元年に導入されて以降、大学病院は控除対象外消費税（損税）の負担を余儀なくされております。通常、事業者は売上の際消費者から受け取った税額から仕入れの際に支払った税額を控除（仕入税額控除）し、その差額を納付しますが、医療機関においては、仕入税額控除として控除できる税額が自由診療等に要した部分のみとなっており、保険診療を行うための仕入れにかかった消費税は控除できないため、医療機関の大きな負担となっております。東京を中心とした大規模な私立医科大学では現在、年間30

億円以上の控除対象外消費税が発生しており、本学でも昨年度は22億円を負担しておりまして、200億円の借金を返済する中、財政を大きく圧迫しております。

要因のもう一つには、国から大学への財政支出がOECD加盟国と比較して非常に低いことが挙げられます。国立大学に対しては運営費交付金という資金が国庫から支払われており、その額は法人経常収益の26.8%にあたりますが、私立医科大学の場合、国立大学の運営費交付金にあたる経常費補助金の割合は事業活動収入の2.5%にすぎないのです。

矢巾の附属病院は2019年に開院いたしましたが、これから軌道に乗せていこうという矢先に新型コロナウイルス感染症が追い打ちをかけ、頼みの綱だった公費支援（病床確保料や診療報酬上の特例措置）は今年度末以降停止となる見込です。

これまで医療の保全・充実と次世代育成のための教育・研究に誠意をもって対応し、貢献してきた本学の役割は極めて大きく、重要な責務を負う中で、近年の社会構造の変化から経営に直結する課題は山積しております。

今後職員の皆様にお考えいただきたいのは、附属病院移転以後、経費負担が増えている現状です。これをいかに健全な状況に戻し、余裕ある経営に持っていくのか。執行部も最大限の努力をして参りますが、皆様にもアイデアを出し合ってください、黒字に転換いたしませんと、大学全体の存続、浮沈に関わることとなります。今年が勝負の年でございます。

最後に、2024年が皆様のご家庭にとって素晴らしい年になりますこと、そして、皆様のご尽力によって岩手医科大学が永続的に繁栄していくことを期待申し上げ、年頭に当たってのご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年 —意識改革と行動力の年—



学 長 祖父江 憲治

新年、明けましておめでとうございます。教職員の皆様方におかれましては、御家族の皆様と健やかな新年を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年は一昨年来より続くロシアのウクライナ侵攻に始まり、イスラエルとハマスによるパレスチナ紛争の激化など国際状況は騒然とした状況でした。いっぽう、国内に眼を向けますと、安倍前首相の暗殺で噴出した政治の暗闇が、統一教会問題からパーティ券購入に関わるキャッシュバックなど政治と金の問題に発展し、一国の正常な政ごとを成さない呈に陥りつつあります。このような混乱状態の中で、国民の不安感情を煽り、自己判断力を弱め、世論の方向性を誘導するかの如きマスコミの無責任さには、怒りを禁じざるをえません。こうした時にこそ、我々がどうあるべきかを、もう一度地に足を付けて考え行動しなければならない時だと思えます。情報過多の中で、いかに自身が判断し行動を起こすかという、当然と言えば当然の対応こそが、今最も重要とされることです。

大学運営につきましては、矢巾新病院建設に伴う借入金、コロナ渦や歯・薬学部の入学者減など様々な要因により、財政が逼迫した状況にあります。この中で、コロナやインフルエンザ感染を乗り切れてきましたのは、教職員の皆様方の大変な御苦勞によるものと感謝致しております。昨年5月に、コロナ感染症は感染法上の位置付けが変更されて以来、コロナ発症は減少し、これによってインフルエンザの流行となりましたが、これも大過なく経過しております。医・歯・薬・看護4学部の講義・実習・クラブ活動を含めた大学機能も、ようやくコロナ以前に戻りつつあり、キャンパスにかつての脈動が感じられるようになりました。学生諸君が生き生きと躍動する姿こそ、本来大学が存在する証であり、これを全うさせることが大学教職員の責務であると思えます。

昨春の医・歯・薬・看護4学部の国家試験は概ね好成绩でした。学生諸君の努力はもちろんのこと、これも教職員の皆様方の情熱と大変なご努力によるものと感謝しております。医療系大学は国家試験合格が必須要件となりますが、国家試験のみならず余力のある学生は多く、彼らのモチベーションを引き出し、多様性ある医療系人材へ育てていく環境作りをお願い致します。

矢巾新病院が開院して、早や4年4カ月が経過しまし

た。この間に、矢巾新病院は北東北の医療中核拠点として、実績を挙げてきております。内丸メディカルセンターも、地域医療の中核として盛岡や西北地域を中心に機能しております。いずれも本学教職員の皆様のご活躍によるものです。この中で内丸メディカルセンターの新築と歯学部の旧循環器センター移転につきましては、財政難の状況下で当初予定しておりました時期をしばらく先延ばし、内容も改変する可能性があります。いずれにしましても、内丸メディカルセンターの改組には十分な検討が必要と考えます。

これも以前から申してきた事ですが、今後の本学の発展にとって最重要な問題は、三つの造り(人造り、器造り、組織造り)として提言したことの一つ、人造りです。殊に医学部と歯学部では医師・歯科医師が、卒後教育としていかに多くの医科研修医、専門研修医(専攻医)と歯科研修医(歯科では専門歯科医制度が無い)として本学に集まるかが、大学力の源泉となっています。これは本学卒業生のみならず、他大学卒業生諸君の参画も重要です。医科では現在(令和5年度)、医科研修医15名、専攻医225名、歯科研修医20名です。医科について言えば、今後450名程の専攻医が必要となります。この大軍団と本学病院医師スタッフとで矢巾新病院と内丸メディカルセンターのみならず、北東北医療圏での無理のない地域医療の遂行が可能になります。このためには、本学を含めた医学部・歯学部卒業生諸君にとっての魅力ある研修医・歯科医さらに専門医コースの設定と各講座間で実績を挙げ輝く学部、大学造りに邁進してまいりましょう。薬学部と看護学部につきましても、両学部ともに本学矢巾新病院と内丸メディカルセンター(歯科医療センターを含む)で活躍してくれる諸君もいますし、学外の医療関係施設で活躍している諸君もいます。いずれの諸君に対しても、必要に応じた卒後研修や再就職の斡旋なども大学として行うべき任務と教えています。

冒頭申し上げましたように、多難な問題が山積している中、これを突破するためには、大学構成員一人一人の意識改革とこれを実行に移す行動力が必須です。新たな年にあたり、いかに多難であろうとも、これを突破する決意を持ち、一日一日を希望の光に向け歩み続けていきたいと思います。皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新春のご挨拶とさせていただきます。

特集

脳卒中・心臓病等 総合支援センター開設

脳卒中・心臓病（循環器病）の医療やリハビリテーション、緩和ケア、介護・福祉サービス、就労、障害に関する適切な情報提供と相談支援を行う脳卒中・心臓病等総合支援センターが2023年5月に開設されました。本号では当センターの取り組みや支援内容について紹介します。

概要

岩手医科大学附属病院は、全国15か所が採択された「令和5年度脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業^{*}」の1つに選ばれ、院内に「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を2023年5月に開設しました。

当センターでは、患者さんとそのご家族の方一人一人に合った支援の形を、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどの専門知識を持ったスタッフが連携し、一緒に考えていきます。また、患者さんのみならず、岩手県民の方々へ健康な暮らしに役立つ情報をお届けしています。



センターのホームページはこちら

※脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業とは

国は「循環器病対策基本計画」に基づき、脳卒中・心臓病等（循環器病）患者を中心とした包括的な支援体制を構築するため、地域の情報提供等における中心的な役割を担う医療機関へ、脳卒中・心臓病等総合支援センターを全国的に先行配置し、検証を行います。

センター長から

この度、岩手医科大学附属病院に新設されました脳卒中・心臓病等総合支援センター長に就任しました小笠原邦昭です。

脳卒中や心臓病は、突然発症して、命や健康寿命に大きな影響を与える病気です。しかし、その多くは、事前の健康診断で予兆を検出したり、糖尿病、高血圧、脂質異常症といった生活習慣病を早期に治療することで、防ぐことが可能です。本センターは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー等の多職種のスタッフが綿密に連携し、治療、リハビリテーション、生活支援まで、患者さんやご家族の方々の困難と不安を解決するためにサポートします。どうぞお気軽にご相談ください。



脳卒中・心臓病等総合支援センター

小笠原 邦昭 センター長

(岩手医科大学附属病院 病院長
脳神経外科学講座 教授)

名称とロゴマーク

脳卒中・心臓病等総合支援センターは、患者さんとそのご家族、岩手県民の方々にとって、気軽に呼んでいただける身近な存在でありたいと願い、センターの名称を「脳・心センター」と省略し、ロゴマークを作成いたしました。脳と心臓、人と人とのつながりを表しています。岩手県内の脳卒中・心臓病患者さんを中心としたひとつなぎの支援体制の構築を目指しています。



相談窓口の設置

当センターでは、脳卒中・心臓病（循環器病）の医療やリハビリテーション、緩和ケア、介護・福祉サービス、就労、障害に関する適切な情報提供と相談支援を行っております。

また、療養にあたっての不安や悩み等も気軽にご相談いただけます。ご来院いただき対面での相談のほか、電話でもご相談を承っております。

【利用方法】

対象の方：岩手県内にお住まいの方（当院への受診の有無は問いません）

相談方法：電話・面談

面談場所：岩手医科大学附属病院 1階患者サポートセンター

対応スタッフ：医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等

受付時間：月～金曜日／10：00～16：00 祝日・年末年始を除く

電話番号：019-611-8063

※ご相談は無料です。ご相談内容についての秘密は厳守いたします。

※面談の場合、事前にお電話にてご予約頂けると、待ち時間少なくご案内出来ます。



各種イベント

当センターでは、患者さんや岩手県民の方々への健康な暮らしに役立つ情報や正しい知識をお届けすることを目的に様々なイベントを実施しています。

■ 世界脳卒中デー 附属病院ライトアップ

世界脳卒中機構は脳卒中の撲滅を目指して、予防啓発に関する様々なキャンペーンを展開しています。このキャンペーンのひとつである、世界脳卒中デーは、毎年10月29日に、世界中でその地域のランドマークが、世界脳卒中機構のシンボルカラーであるインディゴブルーにライトアップされます。期間中、岩手医科大学附属病院もライトアップを実施し、矢巾町の秋の夜に彩りを添えました。



■ 健康フェスタ開催

11月4日イオンモール盛岡にて、脳卒中・心臓病予防啓発イベント「健康フェスタ」を開催いたしました。メインステージでは、トークセッションや、AED救命講座を開催。健康増進ブースでは、減塩レシピ紹介や健康相談、医療費相談、また塩分チェックや運動クイズ、お薬クイズなど参加型コンテンツをご用意し、小さなお子様連れのご家族や、ご高齢の方まで、600名を超える方々にご来場いただきました。



看護師によるAED指導



小笠原病院長、天津木村さん、アンダーエイジさんのトークセッション



健康増進ブース

脳卒中とは？

脳卒中は、脳の血管に問題が起こり、脳の機能に障害が出る病気の総称です。一命を取りとめたとしても、後遺症が残ることが多く、日本で介護が必要になる人のうち約2割が該当するとされています。岩手県は脳卒中死亡率の都道府県別ワースト上位の常連県として知られています。

脳卒中は、以下の3つの種類に分けられます。

脳梗塞

脳を流れる血管が詰まることにより、その血管が担当している部分の脳が壊れてしまう病気です。脳梗塞では、片側の手足に力が入らなくなったり、言葉がうまく話せなくなったりする症状が現れます。視野の片側が見えなくなることもあります。

脳出血

脳を流れる細い血管が切れて出血してできた血の塊が脳を壊してしまうことで症状が出ます。脳出血では、頭痛を伴うことがしばしばあります。

くも膜下出血

脳動脈瘤と呼ばれる血管の分かれ道にできたこぶが破裂することで、脳の表面を覆うくも膜と脳の間に出血を起こす病気です。特徴は突然の激しい頭痛で、緊急の処置が必要です。

脳卒中の原因は種類により異なります。脳梗塞は動脈硬化や血栓が原因となり、脳出血は高血圧が主な原因です。くも膜下出血は脳動脈瘤の破裂が原因となります。いずれも早期発見と早期治療が重要であり、症状があれば受診し、適切な対応を取ることが大切です。「いつもと違うな？」等の異変を感じた場合は、早めに専門医に相談することをお勧めします。海外では、顔のゆがみ、片側の腕の脱力、言葉の症状を Face, Arm, Speech, 最後にできるだけ早く救急車を呼ぶこと、時間が大事の Time として、この4つの頭文字をとって「FAST」というキャンペーンを展開しています。日本語では『「顔」「腕」「言葉」がおかしいときは、「時刻」を確認してすぐ救急車』と覚えましょう。



脳卒中・心臓病等総合支援センター

板橋 亮 副センター長

(内科学講座 脳神経内科・老年科分野 教授)

脳卒中の治療

脳梗塞の治療

症状が出てから4時間半以内であれば、tPAという血栓を溶かす注射薬が効果的です。カテーテルを使って血管につまった血栓を取り除く治療も、近年注目されています。

脳出血の治療

血圧を下げたり、大きな血の塊があれば手術を検討しますが、一旦出た症状を即座に回復させる治療法はまだ存在しません。

くも膜下出血の治療

瘤が再破裂しないよう手術を行い、そのあと脳の状態を厳重に管理する治療が行われます。手術療法もカテーテル手術を中心に進歩していますが、1/3の方が死亡され、1/3の方が後遺症を残す重い脳卒中であることには変わりありません。

脳卒中予防のポイント

前述のとおり、脳卒中は突然発症して命を奪い、健康寿命を縮める要因となる厄介な病気ですが、生活習慣の改善と生活習慣病の早期治療により、発症リスクを減らすことができます。

- 塩分摂取を減らす
- 運動をし、適切な体重を維持する
- 禁煙を心掛ける
- 高血圧、糖尿病、高コレステロールの治療を行う

予防のポイントを意識し、まずは日々の生活習慣を見直してみましょう。

心臓病とは？

心臓は、全身に血液を送り出し、活動に必要な酸素や栄養素を送り届けるポンプ機能を担う臓器です。心臓は筋肉でできているため、心疾患によって心臓の筋肉にダメージが生じたり、心臓に過度な負担がかかって筋肉が疲弊したりすると、心臓の機能は徐々に低下していきます。最終的には血液のポンプ機能が著しく低下することで心不全を引き起こし、死に至ります。病気によって発症してから急激に症状が悪化するケースもあれば、長い時間をかけて徐々に症状が悪化していくケースもあり、高齢化が進む日本では、心疾患は寿命を短くさせるだけでなく生活の質（QOL）を低下させる原因になることも問題となっています。

心臓病は心臓に生じる病気の総称で、日本人の三大死因の一つであり、日本で介護が必要になった原因の4.7%を占めています。主に以下の種類があります。

虚血性心疾患 (心筋梗塞や狭心症)	心臓弁膜症	不整脈	心不全
冠動脈が詰まり、心筋に酸素や栄養分が行かなくなる病気。原因は動脈硬化やストレスなど	僧帽弁や大動脈弁が正常に機能しなくなる病気。先天的な異常や加齢が原因	心臓の電気的な興奮に異常が生じる病気。心臓の筋肉にダメージが生じることも原因	虚血性心疾患や高血圧症、弁膜症などによって引き起こされる臨床症候群。日本では虚血性心疾患が最も多い



脳卒中・心臓病等総合支援センター
森野 禎浩 副センター長
(内科学講座 循環器内科分野 教授)

心臓病の症状

心臓病の症状は、具体的な病気によって異なります。以下にいくつかの症状を紹介します。

- 心筋梗塞** : 最も特徴的な症状は、脂汗が出るほどの激しい胸の痛みです。呼吸困難、冷や汗、吐き気、蒼白な顔色、動悸、めまい、失神なども症状として現れることがあります。
- 不整脈** : 動悸やめまい、脈が飛ぶ感覚などがみられます。
- 大動脈解離** : 突然の胸背部痛で今までにないほどの痛みを感じます。
- 心不全** : 心臓のポンプ機能が低下し、心拍出量が少なくなります。初期の症状としては、ちょっとした負荷で息苦しさや息切れを感じる場合があります。夜間の頻尿や急激な体重増加も注意が必要です。

急性心筋梗塞に限ると、年間約15万人が発症し、そのうちの約30%が亡くなっていると言われています。発症したら一刻を争う事態となるので、迷わず救急車を呼びましょう。

心臓病の治療

疾患や患者さんの状態によって適応が異なり、薬物療法、非薬物療法（心不全に対する治療として、両心室ペーシング植え込みや除細動器、心臓移植等）、カテーテル治療、手術等が検討されます。早期の心臓リハビリテーションも重要です。

心臓病予防のポイント

- 内服を継続すること** : 薬物治療を受けている場合、定期的に内服を忘れずに続けましょう。薬の中断は心不全悪化の主な原因の一つです。
- 食生活に注意すること** : 塩分の制限が重要です。塩分を取りすぎると体内の水分が増え、心臓に負担がかかります。1日の塩分摂取量は6g未満を目指しましょう。
- 自己管理を行うこと** : 心不全は長期間にわたって付き合う病気です。体重や血圧を毎日記録し、症状の変化に注意しましょう。食生活や運動習慣を整え、ストレスをためない生活を心がけましょう。喫煙や飲酒、塩分の摂りすぎにも注意しましょう。

これらの対策を実践することで、心臓病の予防に努めましょう。

Student Doctor 認定式が挙行されました

11月2日(木)、大堀記念講堂において、医学部第4学年135名を対象としたStudent Doctor認定式が挙行されました。臨床実習においてStudent Doctorとして臨床の場に第一歩を踏み出す学生が、医師としての心構えをし医療人の一員となることの責任感や使命感を再認識する節目の式典です。

式では、祖父江学長、佐々木医学部長、小笠原病院長から激励のことがありました。学生を代表して黒岩望美さんは『附属病院の理念である「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」をここに誓います』と力強く宣誓しました。

Student Doctorに認定された学生たちは、これから始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。



Student Doctorに認定された学生ら

ボイラー安全祈願祭が行われました

11月8日(水)、エネルギーセンターにおいて、ボイラー安全祈願祭が行われ、理事長をはじめ本学関係者約10名が出席しました。

当日、神官による神事では、祝詞奏上、清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

なお、令和5年度のボイラーデースローガンは「日々点検、定期検査で 事故ゼロに」です。



小川理事長による玉串奉奠

マツキヨココカラ&カンパニー 奨学金授与式が挙行されました

11月13日(月)、東研究棟1階会議室において、マツキヨココカラ&カンパニーから本学薬学部学生への地域に貢献できる優秀な薬剤師を育成することを目的とした、奨学金授与式が挙行されました。

式では、薬学部5学年大沢吉宏さん、菅井翔太さん、山口琉緋さんに対し奨学金が授与され、マツキヨココカラ&カンパニーの小部真吾常務取締役と同社に入社した本学部卒業生で奨学金受給者であった高橋健太さんから激励のことが送られました。学生からは、奨学金受給に対する感謝の気持ちと奨学生としての決意が述べられました。



左から：河野薬学部長、大沢さん、菅井さん、山口さん、川口栄人材開発部長

災害支援ナース養成研修会が行われました

11月28日(火)、災害時地域医療支援教育センターにおいて、感染症の発生を想定した災害支援ナースの養成研修会が行われました。

これまで災害支援ナースの養成や派遣は各都道府県の看護協会が独自に行っていましたが、災害や感染症対応の看護職の人材確保が法的に整備されることになり、令和6年度から養成研修修了者は「災害・感染症医療業務従事者」として国に登録され、県が派遣要請できるようになります。

当日は県内の看護師37名が参加し、集中治療室での重症患者への対応やたんが出やすくなるよう感染症患者の体位を変える演習等、必要なスキルを学びました。



個人用防護具の着脱指導

附属病院と附属内丸メディカルセンターで クリスマスのサプライズイベントが行われました

12月22日（金）、附属病院と附属内丸メディカルセンターにおいて、クリスマスのサプライズイベント「サンタが附属病院・附属内丸メディカルセンターにやってきました！」が行われました。このイベントは、患者さんや来院者の皆さんへワクワク感のプレゼントと感染症対策・予防啓発を目的に開催されました。

突如現れたサンタクロースは、患者さんや来院された方々一人ひとりに看護部が一つひとつに手書きをしたメッセージシールの貼られた個別包装のマスクをプレゼントしました。

プレゼントを受け取った方々は、サンタクロースの登場に驚きながらも笑顔を見せ、クリスマス気分を味わったようでした。



プレゼントを渡すサンタクロース

高大連携ウィンターセッションが行われました

12月25日（月）・26日（火）の2日間、矢巾キャンパスにおいて、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が主催する高大連携ウィンターセッションが行われました。

このイベントは、県内の高校生が県内各大学の教育・研究内容に触れる機会をつくり、各大学で学ぶことができる内容を広く知ってもらうことを目的として平成15年から開催しています。

本学では医・歯・薬・看護学部がそれぞれ講座を開講し、82名の受講者が講義や実習を体験しました。



薬学部の様子

内丸メディカルセンター体験ツアー が行われました

1月6日（土）、内丸メディカルセンターにおいて、県内の小学生・中学生を対象にした冬休み内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました。当センターの様々な仕事や活動内容を紹介し、見学・体験を通じて医療の現場を知ってもらい、当センターの機能や役割、魅力を発信し、病院の仕事に興味・関心をもってもらうことを目的に開催され、保護者を含め31名が参加しました。

当日は、センターで働く職種の紹介、センター内のツアーなどが行われ、参加した小学5年生の児童は「医療の最前線で働いている大人たちはとてもかっこいいと思いました。将来、人のために役立つ仕事に就きたい」と目を輝かせていました。



入院棟1階ロビーで説明を受ける参加者



臨床検査技師の指導によるエコー体験



看護師の指導による手術着の着衣体験

救急・災害医学講座の藤原 弘之 助教に 独立行政法人国際協力機構 (JICA) から感謝状が贈呈されました

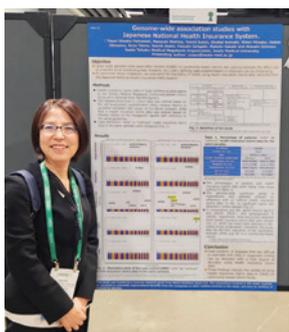
令和5年2月6日午前10時17分頃（日本時間）、トルコ南東部においてマグニチュード7.8の地震をはじめとする複数の地震が発生し、トルコ国内のほか、シリア等周辺国において多数の死傷者が出ました。死者は、トルコ国内で50,096名、シリア国内で5,900名以上となりました（外務省ホームページより）。日本政府は、トルコ政府からの要請を受け、国際緊急援助隊医療チームを派遣することを決定し、私もメンバーとして派遣されました。隊全体としては、35日間の活動で、診察1,946名、入院35名、手術49件でした。私は、19日間に及ぶ派遣期間の中で主に隊全体の活動をコントロールする本部活動に従事し、国際緊急援助隊医療チームとしては初めてとなるWHOが認証するType2いわゆるField Hospital野営病院の運用となりましたが、十分な成果をあげることができました。現地では、地元の医療従事者と連携して日本らしい被災者に寄り添った医療を提供することができ、WHOからも高い評価を得られました。その成果が認められ、JICA理事長より感謝状を受領しました。



眞瀬教授、藤原助教、小川理事長

（文責：救急・災害医学講座 助教 藤原 弘之）

生体情報解析部門の山崎 弥生 特命助教が American Society of Human Genomics 2023 Annual Meeting で Reviewers' Choice Abstract Award を受賞しました



この度、令和5年11月1日～6日にWashington D.C.で開催されたAmerican Society of Human Genomics 2023 Annual Meetingにて「Genome-wide association studies (GWAS) with Japanese National Health Insurance System」という演題で発表を行い、「Reviewers' Choice Abstract Award」を受賞しました。本学会は人類遺伝学とゲノミクス研究に携わる世界中の研究者が集まる年次総会です。

本研究では利活用が推進される医療データ（リアルワールドデータ：RWD）を利用し、高血圧症、糖尿病、脂質異常症、アルツハイマー病、パーキンソン病についてCase-control GWASを行い、従来法よりもRWDを利用することで解析精度が向上した結果を発表し、ゲノミクス研究への活用実現性を示したことが評価されたと考えております。このような貴重な発表の機会を頂き、また榮譽を賜りましたこと、心より嬉しく思います。

最後に清水教授、西谷教授、丹野教授、須藤特命准教授をはじめ、いわて東北メディカルメガバンク機構の諸先生方、ならびにご協力いただいたスタッフの皆様方に深く感謝申し上げます。

（文責：生体情報解析部門 特命助教 山崎 弥生）

中央臨床検査部の作山 美都恵 臨床検査技師が 日本超音波医学会東北地方会において奨励賞を受賞しました

この度、日本超音波医学会第66回東北地方会学術集会において、「自家末梢血幹細胞移植後に肝類洞閉塞症候群を発症した1例：HokUS-10を用いた診断と経過観察」という発表で、第29回奨励賞を受賞いたしました。

肝類洞閉塞症候群に特徴的な10個の超音波検査所見からなるHokUS-10スコアリングシステムを用いた確定診断と治療後の経過観察の有用性を報告しました。当日の発表はとても緊張しましたが、検査意義等を討議でき、超音波検査が臨床に貢献したと強く実感しました。

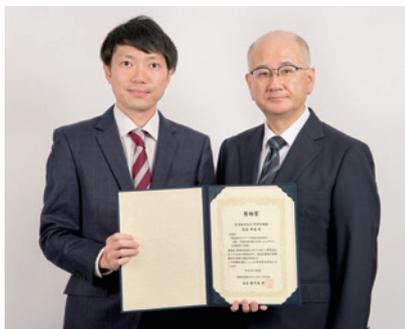
ご指導いただいた黒田特任教授はじめ、消化器内科分野の先生方、小児科学講座の先生方、諏訪部教授、中央臨床検査部の皆様方に深く感謝申し上げます。

（文責：中央臨床検査部 臨床検査技師 作山 美都恵）



作山臨床検査技師、諏訪部教授

大学院医学研究科博士課程4年生の熊谷 秀基 先生が 侵襲とサイトカイン研究会で奨励賞を受賞しました



熊谷先生、佐々木教授

この度、令和5年7月6日に東京で開催された第29回侵襲とサイトカイン研究会の優秀演題セッションにおいて、「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の減量・代謝改善効果とTGF- β シグナル伝達経路の関連」という演題で、奨励賞を受賞しました。

本演題は、減量・代謝改善手術前後で採取した血清を使用してプロテオーム解析を行い、変動がみられたタンパクについて酵素結合免疫吸着測定法および免疫組織化学染色を用いて検証した研究です。プロテオーム解析では、TGF- β シグナル伝達経路に参与する多くのタンパクが手術前後で変動しており、いくつかのタンパクに着目して非アルコール性脂肪性肝疾患との関連を検討すると、Asporinが手術後の肝線維化を予測するマーカーとして、既存のマーカーよりも有用である可能性を示すことができました。本研究は、私の学位テーマでもあり、受賞できたことを嬉しく思います。

最後に、佐々木章教授、梅邑准教授をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。
(文責：大学院医学研究科博士課程 4年 熊谷 秀基)

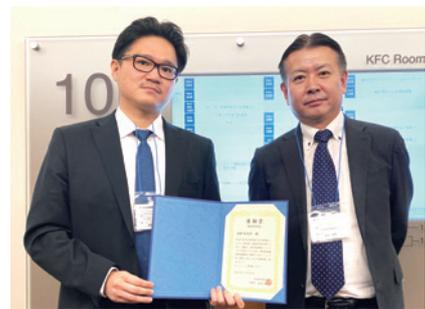
大学院歯学研究科博士課程3年生の池田 裕之介 先生が 日本唾液腺学会で奨励賞を受賞しました

この度、第67回日本唾液腺学会（令和5年11月25日：東京）におきまして、演題「唾液腺腫瘍モデルマウスの確立とその応用－唾液腺腫瘍初期組織発生の解明に向けて－」で奨励賞を受賞しました。

本演題は、外科病理検体からでは解析困難な唾液腺腫瘍の初期組織発生を解明するために唾液腺腫瘍の組織発生を時空間的に制御し得るモデルマウスを確立し、本マウスの唾液腺腫瘍組織発生への応用の妥当性を明らかにするとともに、この唾液腺腫瘍モデルマウスの胎生期唾液腺原基器官培養下に唾液腺腫瘍の誘導を行い、唾液腺腫瘍組織発生の極めて初期段階に関わる遺伝子群とその役割を明らかにしました。

私は2020年4月に大学院歯学研究科に入学後、病理学講座病態解析学分野で研究を進めて参りました。この様な榮譽ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。これまでご指導を賜りました入江太朗教授をはじめ病理学講座の先生方・スタッフの皆様、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の山田浩之教授にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

(文責：大学院歯学研究科博士課程3年 池田 裕之介)



池田先生、入江教授

救急・災害医学講座に配属している医学部5年生の5名が 全国医学生 CPR 選手権大会全国大会の乳児蘇生部門で優勝しました

この度、本学医学部5年生の5名が国立国際医療研究センターで行われた、全国医学生CPR選手権大会全国大会で乳児蘇生部門にて1位を獲得いたしました。惜しくも総合入賞はかないませんでした。総得点275.65点と1位との点数差わずか2点と総合5位の健闘を見せてくれました（決勝に進んだ上位18大学中）。

この大会の概要は先日書かせていただいた通り（第550号12ページ掲載）ですが、やはり全国大会ともなると各大学の技術なども非常に高く、知識も豊富で、実技前の質疑応答では熱い質問や我々でもハッとさせられるような質問が殺到しておりました。



受賞学生と指導教員

学生5名は地方大会が終わってからすぐに全国大会に向けて放課後に積極的に特訓を行い、新たに追加された乳児部門について、小児科の先生方にも自ら質問に行きCPR技術を習得しておりました。その積極性が今回の結果につながったのだと思っております。今回、CPR選手権に出場した学生を中心に救急クラブが新設されます。名称は『ICEEC（アイシーック）:Iwate Clinical Emergency Education Club』でBLSをはじめ救急に関わる知識・技術の向上を目的としたものとなります。ご興味のある学生はぜひ事務や救急科の医師にお問い合わせください。

(文責：睡眠医療学科 専門研修医 峯田 武典)

表彰の榮譽

看護部の佐藤悦子看護部長が 岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました

看護部の佐藤悦子看護部長は、長年にわたり本学附属病院の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和5年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

佐藤看護部長は、28年の長きにわたり看護師業務に精励し、岩手県民の保健医療に貢献されたほか、看護部の運営・問題解決に前向きで、目標管理に積極的に取り組み、柔軟な発想と前向きな姿勢、コミュニケーション能力を活かし、病院内の連携を円滑に行いました。経営的視点を持ち、看護サービスの質向上を図るため、人材育成にも積極的に取り組み、院内外で講師を務め、後進の教育・育成に大きく貢献した功績が認められ、表彰されました。



佐藤看護部長、小川理事長

中央放射線部の鎌田雅義主任診療放射線技師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました



鎌田主任診療放射線技師、小川理事長

中央放射線部の鎌田雅義主任診療放射線技師は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和5年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

鎌田主任診療放射線技師は、一般撮影・歯科撮影等を経験しCT部門の責任者として検査の安全に努め、部門のスタッフのみならず、他部門の教育・指導に携わり、研究会などを通じて県内のCT検査の質の向上に尽力されました。また、同僚の指導・育成のなかで業務の安全性と効率性を重んじ、スタッフおよび患者さんとの信頼関係等についての的確に指導する姿勢は、周囲の規範となりました。37年間の長きにわたり、地域医療に貢献した功績が認められ、表彰されました。

東10階B病棟の榊靖枝看護師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました

東10階B病棟の榊靖枝看護師は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和5年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

榊看護師は、消化器外科、脳神経外科を中心に外科系・内科系をそれぞれ経験し、その知識と技術を活かし37年間の長きにわたり看護業務に精励しました。現在は緩和ケア病棟で高い実践能力をもって、終末期患者さんのケアを行い、エンゼルケアPLN（看護部実践指導者ナース）として、リーダーシップを発揮しています。多職種と協働しながら緩和ケアの質向上に取り組み、看護職のみならず医師やコ・メディカルからも信頼され、実習指導者や看護学校の講師としても活躍する等、附属病院の医療・看護を支えてきた功績が認められ、表彰されました。



榊看護師、小川理事長

テナント紹介

矢巾・内丸キャンパスには多数の店舗が入店し、教職員、在学生、患者さん等へ様々なサービスを提供しています。身近だけど意外と知らなかった各テナントの紹介、おすすめやお得情報を掲載していきます。第8弾となる本号では、理容店内丸メディカルセンターと矢巾キャンパス食堂をご紹介します。

理容店内丸メディカルセンター (外来棟地下1階)

カット・顔剃り・シャンプー(ブロー)を落着いた雰囲気の店内でお客様のご要望に沿ってご提供します。ご予約は不要で顔剃り・シャンプーのみのご利用、女性のお客様大歓迎です。

患者さん以外でもご利用いただけますので、ちょっとした空き時間にぜひご利用ください。小川理事長御用達です！

営業時間 平日 8:45 ~ 16:00
土曜(第1・4) 8:45 ~ 12:00

✂ 料金表 ✂

～ 男性 ～
総仕上げ(カット・シャンプー・顔剃り) … 2,900円
カット … 2,300円
顔剃り … 2,000円
シャンプーセット … 1,500円

～ 女性 ～
総仕上げ(カット・シャンプー・顔剃り) … 3,800円
カット … 2,300円
顔剃り … 2,200円
シャンプー(ブロー) … 2,300円
カット+シャンプー … 3,300円
カット+顔剃り … 3,300円

～ 子供 ～
(小学生以下) … 2,000円
当店は予約しなくてもご利用できます。



矢巾キャンパス食堂 (図書館棟1階)



日替わり定食 550円

栄養バランスを考えた日替わり定食等、安全な食材を使用し、出来るだけリーズナブルな価格で提供しています。学生、教職員の皆さまの活力のもとになるような、お食事を提供して参ります。ご利用をお待ちしております。

営業時間 11:30 ~ 13:30



各種テイクアウトメニュー



お知らせ 事務局組織改編について

令和6年4月1日から以下のとおり事務局組織改編を行います。

変更後

●事務局の改編

企画部	企画調整課
	総合情報センター事務室
	総合移転計画事務室
総務部	人事職員課
	総務課
	施設課
財務部	経理課
	用度課

変更前

企画調整課	企画調整課
	総合情報センター事務室
	総合移転計画事務室
人事職員課	人事職員課
	総務課
	施設課
経理課	経理課
	用度課

法人事務部

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第16回目のご芳名紹介です。(令和5年10月1日～令和5年11月30日)

■ 法人・団体等 (45件)

<1,000,000>

医療法人 明拓会 玉田眼科 (岩手県盛岡市)
株式会社 ベルハンドクラブ (東京都福生市)
医療法人社団 浅井耳鼻咽喉科医院 (神奈川県横浜市)

<300,000>

医療法人社団 平田医院 (新潟県上越市)

<200,000>

医療法人社団 小林皮膚科クリニック (北海道札幌市)
株式会社 木津屋本店 (岩手県盛岡市)

<120,000>

医療法人 伊東内科クリニック (岐阜県岐阜市)

<100,000>

株式会社 興和電設 (岩手県盛岡市)
医療法人 豊島医院 (岩手県宮古市)
株式会社 アプト (岩手県盛岡市)
岩館電気 株式会社 (岩手県盛岡市)
東北電話 株式会社 (岩手県盛岡市)
光建築設計 合同会社 (岩手県滝沢市)
医療法人 すまいる皮フ科クリニック (愛知県春日井市)
医療法人 渡辺内科胃腸科クリニック (福島県須賀川市)
株式会社 朝日工業社 東北支店 (宮城県仙台市)
圭陵会 水沢支部 (岩手県奥州市)
医療法人 阿部耳鼻咽喉科医院 (秋田県横手市)
永代印刷 株式会社 (岩手県盛岡市)
有限会社 小林商会 (長野県上田市)

<30,000>

株式会社 田清水産 (岩手県盛岡市)

<ご芳名のみ>

クリーンアンドケミカル 株式会社 (大阪府大阪市)
医療法人社団 圭祐会 桜田医院 (静岡県富士宮市)
医療法人 浩寿会 中村皮フ科クリニック (愛媛県大洲市)
株式会社 佐々木組 (岩手県紫波郡)
医療法人社団 桜珠会 可也病院 (福岡県糸島市)
医療法人社団 三好耳鼻咽喉科クリニック (宮城県仙台市)
江渡商事 株式会社 (青森県青森市)
河北印刷 株式会社 (岩手県盛岡市)
医療法人 子羊会 (宮城県仙台市)
株式会社 吉田測量設計 (岩手県盛岡市)
共立医科器械 株式会社 (岩手県盛岡市)
医療法人 新輝会 (岩手県花巻市)
岩手中央農業協同組合 (岩手県紫波郡)
宮城建設 株式会社 (岩手県久慈市)
岩手県医療機器販売業協会 (岩手県盛岡市)
フィンガルリンク 株式会社 (東京都台東区)
株式会社 南部医理科 (岩手県紫波郡)
CSI 株式会社 (岩手県盛岡市)
株式会社 トーセイメディカル (岩手県盛岡市)
東京美装興業 株式会社 (東京都新宿区)
オヤマダエンジニアリング 株式会社 (岩手県盛岡市)
医療法人 大高眼科医院 (福島県須賀川市)
清水建設 株式会社 東北支店 (宮城県仙台市)
株式会社 岩手ナブコ (岩手県盛岡市)

(順不同、敬称略)

■ 個人 (99件)

<1,000,000>

中垣 葵 (医20)
福岡 徳生 (医10)

<500,000>

金澤 格 (医46)

<300,000>

瀬川 文香 (医53)

<200,000>

島田 杉作 (父母)

<100,000>

長崎 昭憲 (歯3)
本田 信也 (医43)
藤森 芳史 (父母)
菊池 隆 (歯25)

窪田 実 (父母)

田代 和子 (一般)

小瀬川 玄 (医34)

中居 賢司 (医23)

草野 英昭 (医34)

<50,000>

志田 杜人 (歯6)

渡部 仁吉 (医22)

水戸 龍一 (医47)

中田 亨 (父母)

今泉 信一郎 (医15)

<30,000>

大弓 政雄 (父母)

前田 正徳 (父母)

齊藤 裕志 (歯9)

石田 勲 (医47)

能戸 清 (医1)

大沼 猛 (父母)

<20,000>

藤田 恒明 (医34)

<10,000>

横内 大 (歯25)

満川 元貞 (医45)

岡口 守雄 (歯16)

日下部 浩 (父母)

湯沢 健一 (父母)

島田 克博 (父母)

曾我部 光宏 (父母)

板坂 脩平 (医72)
 佐藤 良彦 (父母)
 堀江 智仁 (父母)
 加藤 陽一郎 (医53)
 新沼 淳一 (父母)
 木村 元 (父母)

<ご芳名のみ>

松丸 健三郎 (他)
 松丸 英子 (医19)
 白岩 和香苗 (医49)
 竹内 守 (医18)
 大津 幸世 (医21)
 武田 泰典 (名誉教授)
 増戸 尚 (医20)
 千田 喜子 (医70)
 和田 哲行 (父母)
 小長谷 稔 (父母)
 橋本 誠紀 (医35)
 日野 勝彦 (父母)
 大沢 久人 (名誉教授)
 八木 孝陸 (医26)
 中村 誠司 (父母)
 大塚 和歌子 (歯23)
 瀧澤 敏勝 (父母)
 稲葉 大輔 (歯11)
 小滝 敏郎 (父母)
 塩野入 正一 (父母)
 吉田 彰英 (歯25)
 原田 一道 (医24)

廣田 茂 (他)
 佐藤 智子 (父母)
 板倉 康太郎 (医28)
 黒澤 洋 (医56)
 榎引 邦亮 (医32)
 栗田 輝久 (父母)
 宮本 憲治 (父母)
 目黒 英二 (医38)
 岸本 年史 (父母)
 谷藤 典子 (医47)
 谷藤 泰寛 (医16)
 佐藤 方信 (名誉教授)
 波紫 秀厚 (他)
 川村 洋行 (父母)
 田端 誠 (父母)
 下瀬川 健二 (医41)
 川村 秀司 (医35)
 杉山 晶規 (教職員)
 渡邊 直哉 (父母)

藤宮 大 (父母)
 漆久保 潔 (医26)
 太田 稔 (名誉教授)
 日下 純男 (医14)
 和賀 浩幸 (歯16)
 稲葉 陽 (歯46)
 金澤 義彦 (父母)
 朝村 晴美 (歯2)
 荒井 啓史 (医38)
 熊谷 明美 (父母)
 大澤 浩 (医31)
 齋藤 義憲 (父母)
 小林 義明 (父母)
 祖父江 憲治 (役員)
 柴田 誠 (父母)
 安田 優輝 (医67)
 佐瀬 正博 (医25)
 中下 健 (医17)
 中下 博康 (医33)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	474	209,478,220
在 学 生 ご 父 母	369	83,960,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	43	43,860,000
教 職 員	45	7,180,000
一 般	24	487,062,572
法 人 ・ 団 体	284	175,055,481
合 計	1239	1,006,596,273

(令和2年9月1日～令和5年11月30日現在)

創立120周年記念事業募金

第55回目のご芳名紹介です。(令和5年10月1日～令和5年11月30日)

■ 個人 (2件)

<ご芳名のみ>

鈴木 一幸 (名誉教授)
 石郷岡 政広 (一般)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,115	673,205,089
在 学 生 ご 父 母	933	548,622,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	104	127,820,000
教 職 員	271	36,572,000
一 般	149	50,286,010
法 人 ・ 団 体	413	1,358,404,000
合 計	2,985	2,794,909,099

(平成26年6月1日～令和5年11月30日現在)

岩手医科大学報の配布部数を見直します

岩手医科大学報は、大学の運営方針、行事及び教育・研究・医療等に関する情報提供及び学内の融和を図ることを目的とし、昭和34年6月に岩手医大月報として第1号を発行し、平成4年6月(第304号)からは岩手医科大学報に名称を変更しました。

歴史ある岩手医科大学報はこれまで職員の皆さんへ一人一部の配布を続けてきましたが、今般、発行部数を見直し、第553号(5月号)から各部署1部の配布へ変更させていただきます。大学ホームページ上への公開は引き続き行いますので、人数が多い部署の方やゆっくりとご覧になりたい方はホームページからご覧ください。

■ 掲載場所

大学トップページ→情報公開→岩手医科大学報 (<https://www.iwate-med.ac.jp/ideology/report/>)



理事会報告（11月定例－11月27日開催）

1. 教員の人事について

医学部麻酔学講座 特任教授

熊谷 基（前 同講座 准教授）

（発令年月日 2023年12月1日）

2. 医学部の講座再編について

臨床検査医学の更なる充実と感染症学の強化のため、臨床検査医学講座を臨床検査医学・感染症学講座に組織改編することを承認した。

（施行年月日 2023年12月1日）

3. 内部監査室長の選任について

鎌田 彰裕（前 病院事務部病院総務課）

（任期 2023年12月1日から2024年3月31日まで）

理事会報告（12月定例－12月18日開催）

1. 薬学部の定員削減に係る学則の一部改正について

薬学部薬学科の入学定員を50名、収容定員を300名へ削減し、学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

中央処置室

中央処置室は2階中央に位置し、看護師3名と受け付け事務1名で運営しています。主に外来通院される患者さんの注射や輸血、処置などを行っています。また体調不良の患者さんが来院された際には、症状観察や有事の対応を行うなど外来での処置を中央化し担っている部署です。近年は、患者さんのQOL向上を考慮した治療・処置の進展もめざましく、新規に施行する処置は該当診療科の医師や看護師と協働し学びを深めながら対応をしています。中央処置室には様々な診療科の疾患や症状のある患者さんが不安を抱えて来室します。私たちは患者さん一人ひとりとの関わりを大切に、治療に向き合う思いや時には診察中にお話しできなかったことを伺い、寄り添った看護の提供に努めています。処置を受ける患者さん

が安心し、安楽な環境で治療や処置が受けられるよう担当医師や各ブロックの看護師をはじめ多くの職種と密に連携して看護を提供しています。

(主任看護師 吉田 順子)



中央手術部

中央手術部は、麻酔科医師、看護師のほか、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師などの多職種が専従し、安全な手術の提供のために、専門的な知識・技術を活かして業務を行っています。手術室は20室あり、ハイブリット対応やアンギオ対応、CT撮影対応可能な手術室を完備し、高度医療を担っています。24時間体制で緊急手術を受け入れ、昨年度は25診療科約8,600件の手術に対応しました。

関わる中で、一人ひとりに合わせた対応を常に大切にし、医療・看護の質向上に努めています。スタッフ一同、常に患者さんやご家族の思いに寄り添った医療の提供ができるよう取り組んでいます。

(主任看護師 山岸 明枝)

各診療科の診療に貢献すると共に、患者さんが安心して手術が受けられるよう多職種で協働し、手術医療を提供しています。数多くの術式や高難度な手術への対応には、専門性を求められる場面が多いため、新人や交代者へのサポート体制を充実させ、部署全体で人材育成に力を入れています。多くの患者さんと



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田留美子	

編集後記

新年を迎え、大学報第551号をお届けします。

本号では昨年5月に開設された脳卒中・心臓病等総合支援センターに関する特集が掲載されています。病院が全国的なモデル事業に選ばれ、その概要と展望を共有する機会を設けました。また、学生活動や地域社会への貢献など、大学の多面的なトピックスもご紹介しています。

冬の寒さが厳しい中、この号が皆様の心に暖かい光をもたらすことを願っています。新しい年の始まりに、皆様の健康と幸せをお祈り申し上げます。

(編集委員 佐藤 泰生)

岩手医科大学報 第551号

発行年月日/令和6年1月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

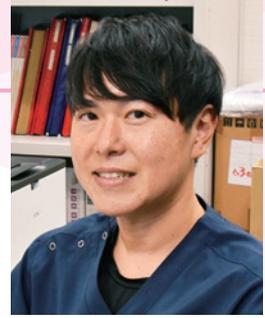
E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



放射線腫瘍学科 特任講師 菊池 光洋

寡分割照射による放射線治療回数・治療期間の短縮

放射線治療は、1日1回、2 Gy (グレイ) 程度の量の放射線を病巣に照射することを、平日毎日行い、それを数週間続けるのが一般的なスケジュールです。もちろん病状に応じて、1回に照射する放射線の量や、照射の回数は異なってくるのですが、多くの患者さんが、5週間から7週間、平日毎日、放射線治療を受けに病院に来院しています。この長期間の治療は、特に仕事を続けながら放射線治療を受けられている患者さん、体調の悪い患者さん、病院から離れた地域に住んでいる患者さんにとっては、とても大変なものです。

最近の放射線治療のトピックに、「寡分割照射」があります。寡分割照射とは、1回に照射する放射線の量を増やして、代わりに照射の回数を少なくした治療と理解してもらえれば良いと思います。近年、寡分割照射は、様々ながんに対して実践されてきています。

例として、乳癌に対する乳房温存術後(乳房を残しつつ、がんを切除した後)の放射線治療では、従来は25回程度(約5週間)の治療が必要でしたが、現在は16回程度(約3週間)の寡分割照射が従来の治療と同等の治療として推奨されています。さらに、2020年には治療回数を5回(1週間)に短縮した「超」寡分割照射が、3週間の寡分割照射に非劣性(効果が劣っていない)であることを示した研究結果が海外から報告されました。5回の治療に関しては、長期のデータや、日本人における安全性の確認が待たれるところですが、放射線治療の利便性は確実に進歩しています。

ところで、2 Gyを10回照射し20 Gyの治療を行うのと、4 Gyを5回照射し20 Gyの治療を行うのでは、効果はどう違うのでしょうか? 答えは、1回に4 Gyを5回照射する治療の方が、より効果の高い(強い治療)となります。そのため、寡分割照射で、従来の治療と同等の効果を得たい場合には、合計の線量は低めに設定する必要があります。寡分割照射の実施にあたり、合計の線量が低くて大丈夫か? という質問を頂くことがあります。1回に照射する放射線の量も、治療強度に影響することを知っておく必要があります。

乳癌に対する乳房温存術後照射スケジュールの例

従来の治療 (通常分割照射)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	○	○	○	○	○	
	2 Gy					
8	9	10	11	12	13	14
	○	○	○	○	○	
	2 Gy					
15	16	17	18	19	20	21
	○	○	○	○	○	
	2 Gy					
22	23	24	25	26	27	28
	○	○	○	○	○	
	2 Gy					
29	30	31	1	2	3	4
	○	○	○	○	○	
	2 Gy					

寡分割照射

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	○	○	○	○	○	
	2.66 Gy					
8	9	10	11	12	13	14
	○	○	○	○	○	
	2.66 Gy					
15	16	17	18	19	20	21
	○	○	○	○	○	
	2.66 Gy					
22	23	24	25	26	27	28
	○					
	2.66 Gy					
29	30	31	1	2	3	4

○は放射線治療がある日、下段は1回に照射する放射線の量